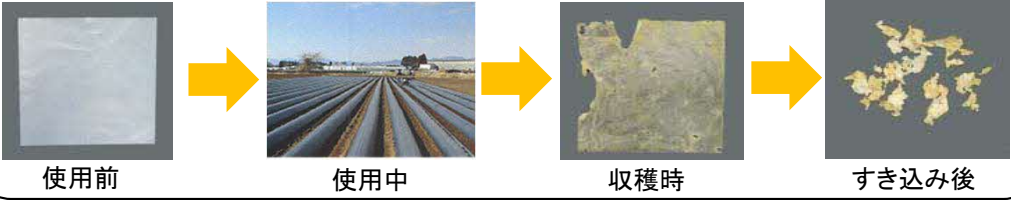


農業生産における生分解性マルチの利用

- 生分解性マルチは、作物収穫後に土壌中にすき込むと、微生物により水と二酸化炭素に分解する資材
- 作物収穫後のマルチ回収作業が不要で、農作業の省力化や廃プラスチックの排出抑制にメリット
- 収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込み、強風による飛散や河川等へ流出しないように注意

生分解性マルチとは

作物生育期には通常のポリマルチと同様の機能を有するが、収穫後に土壌中にすき込むと、土壌中の微生物により最終的に水と二酸化炭素に分解する資材



生分解性マルチの利用(例)

- 露地栽培での利用が多い
- 【果菜類】トウモロコシ、カボチャなど
- 【葉菜類】ハクサイ、キャベツ、タマネギなど
- 【根菜類】ダイコン、ニンジン、ゴボウなど
- 【いも類】ジャガイモ、サトイモ、サツマイモなど



生分解性マルチの普及

生分解性マルチの利用は年々増加し、2018年の出荷量は約3,400トン



※省力面のメリット(作物収穫後のはぎ取り・回収作業が不要)など省力化から、2013年から2018年までの5年間で約2倍に増加

生分解性マルチのメリット

- 【省力面】生分解性マルチは土壌中の微生物により分解されるため、作物残渣と一緒にすき込みでよく、作物収穫後のはぎ取り・回収作業が不要(省力化) (通常のポリマルチは収穫後にマルチはぎ取り、回収、作物残渣を取り除く作業が必要)
- 【環境面】生分解性マルチは使用後の廃プラスチック処理が不要で、プラスチックの排出抑制に貢献(通常のポリマルチは、使用後に廃プラスチックの適正処理が必要)
- 【経済面】生分解性マルチの価格は通常のポリマルチの2~3倍であるが、使用後の処理費用が不要(通常のポリマルチは使用後に回収し、産業廃棄物としての処理費用が必要)



省力面・環境面・経済面でメリット

生分解性マルチの使用後の処理

作物収穫後に生分解性マルチをすき込まずに放置していると、微生物による分解が進まず飛散する可能性があるため、収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込む必要がある。

※風が強い日のすき込み作業の場合は、生分解性マルチが飛散して河川等へ流出しないように注意する



収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込む

さらに詳しい事例は「生分解性マルチの活用事例(H31.2:農水省生産局)」でも紹介 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/pura-jun/pdf/pura-jirei.pdf>